

説明会内容

-
- 名 称 Fujisawa サステイナブル・スマートタウン地区地区計画の変更に係る説明会
 - 日 時 2013年10月11日(金) 19:00~20:00
 - 場 所 辻堂市民センター 第1談話室
 - 参加者 4名
 - 趣 旨
-

Fujisawa サステイナブル・スマートタウン地区地区計画の都市計画変更手続きとして、地元向けの都市計画説明会を開催したものを。

■主要内容

(アルファベット：参加者 市：藤沢市)

- A 説明の中で壁面後退4mというのがあったが、資料のどこに表わしているのか。
市 計画書上は「計画図による掲げる値以上」としており、計画図の中で凡例として示している。
- B 「既存の緑地帯」に文言が変更されたが、その背景について教えていただきたい。
市 段階的に地区整備計画を定めていく中で、内側を定めてから今回外側の地区整備計画を定めることになった。既存の桜は潮風で痛んでおり保存・再生が難しかった。中高層建築物を建てるということで、そのことに桜が弱く、残せる桜は残し、場所等を勘案し桜以外のものも植える計画になり、文言を変えることになった。
- B 地元から、何故そのように、という声も耳にしているので、今の考えが伝わるようにしていただければよいと思う。
- A サステイナブル・スマートタウンということを謳っているが、パナソニック社としてどのような思いなのか。藤沢市としては何かサステイナブル・スマートタウンとしての考え方を持っているのか。本当に世界にアピールするようなものなのか。
市 パナソニック社として、今後は地区の周辺へエコのまちを拡げていきたい、これをきっかけに日本・世界へ発展させていきたいという思いはあるよう。市としても一緒に見極めながら、サステイナブルなまちづくりを考えていかなければならない。ここで得た経験値というものを他でも活用していきたい。
- B 地元として関心のあることは、公共施設等の整備の方針にある①と②。現時点での見通しはどうなっているか。
市 JRを横断する道路は、立体部分については事業費、付帯する公共施設の整備や老朽化を考えていかなければならない。事業費が大きくなるため、いつということについて答えることが難しい状況。計画としては持っているので実施段階になったら地元の説明していきたい。
- B 言えること言えないことがあると思うので、今日の段階では結構。
- A まち開きが2014年ということだが4月ということでのよいのか。
市 来年3月の予定。地区の一部について入居をし、まち開きを行う。
- A 完成は何年後を見込んでいるのか。
市 毎年100戸程度住宅を供給し、戸建ては600戸なので6年後の平成30年には完成を見込んでいる。
- A 生活支援地区や福祉・健康・教育地区は市の計画として行っていくのか。
市 パナソニック社が土地を売却し、買った先の事業者が事業を行う。
- B 原動機の出力が0.75キロワットという規制になっているが、説明会でそのような数値を読み上げて、どれだけの人が理解するのか。何故そういうものを規制しているのか、例としてこういうものをやってはいけないということで0.75キロワットという数字が出てくるんだ、ということで地元説明していかないと、という印象を受けた。
市 第一種低層住居専用地域で使用してよい原動機ということで0.75キロワットという数値を採用しております。

B 0.75キロワットに抑えておけば騒音にならずにお互い幸せになれます、とこういう説明をしたら分かり易いと思う。

C 騒音に関する規制や、光の害に関する規制はどうなっているか。

市 騒音規制法など環境関連の法令の中で規制される。騒音や、光害に関しては、地区計画では規制として定めていない。第一種住居地域なので夜間、昼間それぞれ何デシベルといったような規制になるが、0.75キロワットということで第一種低層住居専用地域でしか使えないような原動機の出力にしているので、騒音規制値を超えることは無いと思う。既にある周辺道路からの騒音だけで規制値を超える状況があるかと思う。

A 電気自動車のバスで交通アクセスを改善するということを聞いているがどうなっているか。

市 戸塚茅ヶ崎線から中に入っていないで、今既にあるバス停を使っただけということを考えている。電気バスが路線バスとして使われるという事例が無く、民間のバス会社での運用がなかなか進まない状況で、今の段階では計画されていない。

以 上